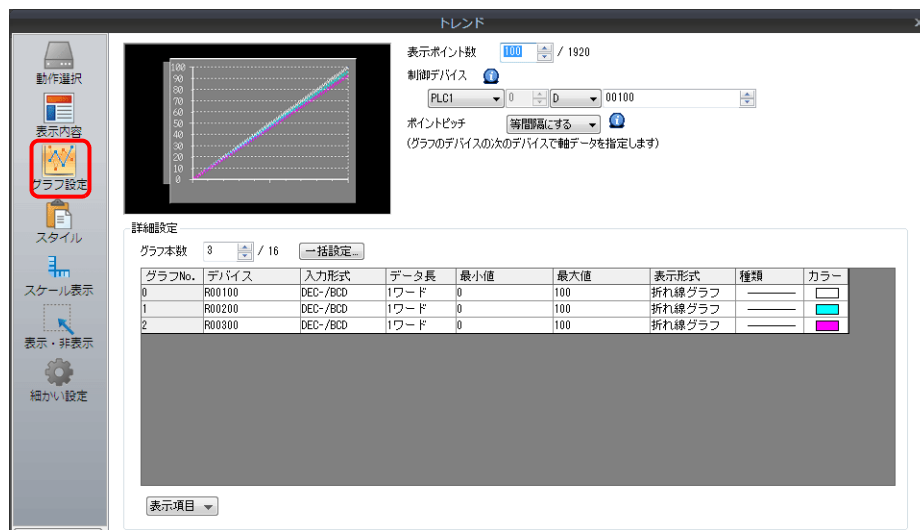


グラフ設定



項目	内容																																
表示ポイント数 *1	横軸のポイント数を設定します。 - 320 × 240 ドットの場合 : 3 ~ 320																																
制御デバイス	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>15</td><td>14</td><td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>09</td><td>08</td><td>07</td><td>06</td><td>05</td><td>04</td><td>03</td><td>02</td><td>01</td><td>00</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> <p> └─ 0 → 1 (エッジ) : 再描画 └─ 実行ポイント数 └─ 0 → 1 (エッジ) : 再描画クリア </p>	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00			0	0	0											
15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00																		
		0	0	0																													
	<p>実行ポイント数 *1 (0 ~ 1024)</p> <p>表示するポイント数を設定します。 No. [0 (~ 15)] に設定した [デバイス] の内容を、指定した実行ポイント数分、読み込みます。</p> <p>再描画 *2</p> <p>実行ポイント数分、再描画します。 エッジ (0 → 1) 領域をクリアしないため、前に描画したグラフ上に描画します。</p> <p>再描画クリア *2</p> <p>実行ポイント数分、再描画します。 エッジ (0 → 1) 領域をクリアした後、グラフを描画します。最新のグラフのみ表示します。</p>																																
ポイントピッチ	<p>等間隔にする 全てのポイントを等間隔にします。</p> <p>スケールで指定 ポイントの間隔をスケール範囲で指定します。</p> <p>ドットで指定 ポイントの間隔をドットで指定します。</p> <p>詳しくは、「7.3.3 ポイントピッチについて」P 7-35 を参照。</p>																																
詳細設定	<p>グラフの本数</p> <p>グラフの本数を設定します。 最大 16 本</p> <p>デバイス</p> <p>このデバイスの内容を読み込み、グラフ表示します。[表示ポイント数]、[データ長] の設定により使用デバイス数が異なります。 詳しくは 「7.3.3 ポイントピッチについて」P 7-35 を参照。</p> <p>使用範囲</p> <p>ポイントピッチ : ドット数で指定 の場合</p> <p>入力形式</p> <p>デバイス値のデータ形式を設定します。 DEC-/BCD *3 / 実数 *4 最大値 / 最小値 / X 軸スケールの値も同じ入力形式で扱います。</p> <p>データ長</p> <p>1 ポイント分のデータ長を設定します。 1 ワード / 2 ワード</p> <p>最小値 *5</p> <p>グラフの表示範囲を設定します。(PLC デバイス *6 / 内部デバイス *6 / 定数)</p> <p>最大値 *5</p> <p>スケール最小値 *5</p> <p>[グラフ設定] → 「ポイントピッチ : スケールで指定」の場合に設定します。 詳しくは、「7.3.3 ポイントピッチについて」P 7-35 を参照。</p> <p>スケール最大値 *5</p> <p>表示形式</p> <p>グラフの種類 (線またはマーカー) とカラーを設定します。</p> <p>種類</p> <p>カラー</p>																																